**ダイバージェンスの検証結果の検証**

　日足の検証をある程度終え、そのまま240分足の検証に移る前に気付いた点等を整理しました。頭の中のモヤモヤを少しでもはっきりさせることができたらと考えています。

**日足の検証をやり直した経緯**

1. **検証のやり方自体が間違っていました。**  
   　1回目の検証は、ＰＢとＥＢの検証の時のような半ば機械的な作業で検証を進めていたため、ターゲットを絞り込むための検証では通用しませんでした。きちんと1場面ごとに日足や240分足を行ったり来たりしてタイミングを確認し、4パターンのエントリーポイントを色分けしてチャートに印をつけ、その都度データを検証シートに記入し、画像も添付するようにしたところ、段々とエントリータイミング等が分かってきました。
2. **エントリーポイントが中々つかめませんでした。**　第1回目の検証ではMACDの山と山にラインを引き、チャートを見てダイバージェンスを確認していたため、トレンド転換の初動から面白いように勝つことができました。ダイバージェンスのスゴさを体感しましたが、一方で今の自分ではこのようにピンポイントでエントリーできないことに気付いたことで第1回目の検証はボツにしました。  
     
   　第2回目の検証は、まずMACDを見てダイバージェンスになりそうな場面を確認し、チャートで高値・安値が更新されたらその時のMACDの形を確認してエントリーするようにしました。このやり方が私にはしっくりきましたが、まだ機械的に検証を進めていたため、途中で挫折しました。  
     
   　3回目の検証に移る前にチャートを縮小してエントリーポイントを確認したところ、  
   　　・大半がいいタイミングで「ダブルトップ・ダブルボトム」になっていること  
   　　・トレンド中に逆行して入ってもなぜか今回の手法ではある程度勝てていること  
   　　・微妙なダイバージェンス（高値と高値の間に小さな高値を挟むパターン）でも勝てている  
   といった印象を受けました。これらが分かったことで少し自信がついたので、3回目の検証を再会しました。

**気づき**

1. MACDの山が出来る前にエントリーしても、結果としてダブルトップやダブルボトムになってトレンドがすぐに転換してくれることが多い印象を受けました。
2. トレンド中に押し目や戻しをつける場面で、トレンドに逆行してエントリーしてもそれなりに勝てる（余り負けない）ようです。まだ逆張りは怖いイメージがありますが、ダイバージェンス自体が逆張り的なエントリーポイントで、そこにダウ理論を加えることでいかに順張りでエントリーできるかが大事かな、と思います。
3. とは言っても、ＰＢやＥＢなしで単なる高値・安値ブレイクでエントリーするのであればトレンドに逆行するのは厳しいかな、とも感じました。
4. ＰＢのフックは強力だな～、と数少ないデータではありますが思いました。S/Rにヒゲが食い込んで実体で戻されているパターンはかなり鉄板なのかな、と感じました。ＭＡ以外のS/RとＰＢだけでエントリーすることに恐怖を感じていましたが、何かいけそうな気がしてきました。
5. ピングリフィンバーの検証を分けてしても面白いな、と思いました。今回の検証でＰＢブレイクが少ないのは、ＥＢブレイクと被るため、ＥＢブレイクとしてデータを集計していたことに検証が終わって気づきました。純粋にピングリフィンバーだとどうかな、という興味です。
6. ある程度経験を積んで相場観を身に付けるまではエントリーポイントをピンポイントで絞り込むのは難しいので、建値決済で防御しながらタイミングをはかる必要があるのかな、と考えました。当然、トリガーの条件がそろわないとノーエントリーですが（笑）。
7. トレーリングが下手くそすぎて笑えました。結果としてトレンド初期で決済してしまい、かなりのトレンドを取れずに悔しい思いをしました。きちんとトレンドが取れるようになれば検証結果がかなり改善されると思います。ＥＢのパターンもエントリー用とトレンドフォロー用で分ける必要があるのかもしれません。トレンドフォロー用は、トレンド初期においては陰線・陽線か陽線・陰線のパターンだけに絞るとか、工夫してみます。
8. ＰＢとＥＢのブレイク手法は成功すると大きな値幅を取れるので、ものすごく利益が大きい印象が強かったですが、データを見なおしてみると…  
   ①キャンドルが長いのでそれほど利益が大きくない　  
   ②ブレイク後の戻しで建値決済になることが多い　  
   ③しかし、トレンド転換の初動の初動（てっぺんや底）の小さな値動きでエントリーする際には、長いキャンドルでブレイクしてくれた方が安心してエントリーできる
9. ＰＢやＥＢを使わず単なるブレイクでエントリーする手法は一見、資金が大きく増加しているように見えますが（確かに大きく増加していますが）、回転数を考えたら圧倒的に不利だな、と感じました。勝率が高ければ回転数を増やすことで複利で資金が増えていくので、単純に資金の増加額では比較できないと思います。
10. 意識されている直近高値や安値にラインを引き、それを延長してみると「ファーストコンタクト」と思われるところでもS/Rが使われていることがあるので、今後チャートパターンの検証をする際にファーストコンタクトの場面で出現するＰＢやＥＢも検証してみようと考えています。
11. 全般的に勝率が高かったので、データのリスクを3％から5％に変えてどうなるか見てみました。すると資金増加が7.6倍から25倍、2.6倍から4.8倍、3倍から6倍。勝率を上げることができればリスクを3％から4％、5％に上げることができ、複利効果が大幅に高まることで資金の増加スピードも加速されることが理解できました。建値決済を入れることでドローダウンを抑えて勝率を上げるメリットもここにあるのかな、と考えました。

**感想**

　ダイバージェンス自体の気づきが余りないのが気になりますが、1度頭の中のモヤモヤをまとめてみることで、次回の検証からはこれらのポイントを少しは意識して見るようになると期待しています。今までは余り勝率にこだわっていませんでしたが、これからの検証ではいかに勝率を高めるかも意識して検証していきます。

　色々とアドバイスをいただいたり、サポートフォーラムで質問させていただいたり、他の方々の実践記を読ませていただいて、240分足の検証に役立てさせていただきたいと考えています。形になるまではチャートパターンの検証を実施します。